

# 火曜会通信

発行日：平成14年10月1日

発行：伊丹市文化財ボランティアの会

発行所：伊丹市千僧1丁目1番地

伊丹市教育委員会事務局内

## <巻頭言>

### 伊丹と『おくのほそ道』

渡邊 敏子

『月日は百代の過客にして行きかふ年も又旅人也』という書き出しで始まる「おくのほそ道」は、元禄二年(1689)三月に芭蕉が門人曾良を伴って江戸を発ち、奥羽・北陸を経て八月中旬に美濃大垣に着き、やがて九月に伊勢神宮へと旅立つまでのことを記した紀行文です。

しかし完成したのは元禄七年(1694)になってからだろうと考えられています。元禄十五年(1702)芭蕉の最晩年の作品として出版されました。

今から十三年前の平成元年は、この芭蕉が「奥のほそ道」へ出立した元禄二年から数えて、恰度三百年という記念の年でした。当時は、それに因んだいろいろな行事が各地で催され、また、テレビ・ラジオでも取り上げられて世間の話題を集め芭蕉ブームが続きました。

たまたま、私は柿衛文庫講読コースを受講していましたので、「奥の細道を訪ねて」の現地学習に参加しました。四回に分け、四年をかけて、東京深川より奥羽・日本海沿岸・佐渡・富山・福井と、芭蕉の足跡をたどりました。

(芭蕉は、佐渡島には渡らずに「荒海や 佐渡によこたふ 天の河」を詠みました)

現在、文化財ボランティアの会員としていろいろ学んでいます。その上でこの旅行に参加していたら、おそらくもっと印象に残ったのではと思います。それは、各地の神社・寺院・名所を訪ねた時にその縁起・史跡・文化財等がよく理解でき、興味を持って拝観・見学できたのではないかと思うからです。その上で芭蕉の句が深く味わえたのではないかと思います。

多賀城碑(宮城県多賀城市) 芭蕉が立寄った多賀城碑は、伊丹の「辻の碑」と同じく、国境からの距離を刻んだ古碑として有名で「壺の碑」とも呼ばれています。

柿衛本の真蹟の句碑 酒田市日和山公園に芭蕉の句碑があります。

「暑き日を 海に入れたり 最上川 芭蕉」 碑陰に「句は芭蕉が奥の細道の途次当地で吟じたもの、書は能書の聞こえ高い門人素龍に命じて浄書せしめた二本のうち柿衛本から採取したもの、従って優麗見事な書風である。頭書は奥の細道に深い繋がりをもっている。昭和五十四年九月 柿衛書」と見えます。「柿衛」は、岡田利兵衛氏の俳号で芭蕉の筆跡鑑定的第一人者です。

### 主な行事予定(11月から1月) 定例会

11月12日(火)	研究発表	「村の歴史・神津村」第3回	中央公民館
11月19日(火)	秋季バス旅行	「宇治万福寺と伏見の町並」	市役所前出発 8:30
12月10日(火)	自主研究発表	「未定」	中央公民館
1月14日(火)	研究発表	「古文書に触れる」	中央公民館

寛文元年（1661）、これまで天領であった伊丹郷町11ヶ村が摂関家の近衛家所領となり、以後2度の変更があり明治4年まで続いた。なぜ幕府がこのような政策を行なったかまた、近衛家の事情などを考察してみたい。

### 1. 伊丹郷町の近衛家所領の変遷

寛文元年の知行高は1402石余（村名：伊丹・大広寺・北中小路・南中小路・円正寺・古野田・植松・外崎）、延宝3年（1675）には知行高1023石余（村名：伊丹・円正寺・古野田・植松・）で約380石減少している。しかし近衛家の財政が苦しい事情により幕府は、正徳元年（1711）に知行高を1857石余（村名：伊丹・北中小路・南中小路・外城・高畑・新野田・古野田・植松・外崎・北小路・昆陽口）に加増している。

### 2. 近衛家と宇治

藤原道長の息頼道により、宇治別業が永承7年（1052）に寺院として平等院と名付けられた。この平等院を藤原氏の氏寺化し、氏の再興をはかったのが道長より数えて4代の子の藤原忠実であった。この忠実の時代には別業富家殿「ふけどの」（五ヶ荘付近）が営まれ摂関家の拠点となった。即ち宇治別業は氏寺に姿を変え、別業富家殿は荘園として摂関家の経済を支えていくことになる。鎌倉時代忠実の孫の代に入ると、近衛家と九条家とに分立し、宇治は近衛家が領有する事になる。室町時代の中頃、近衛正家の時代には富家殿も五ヶ荘と称するようになり、五ヶ荘が広範な地域を含むようになった。

### 3. 江戸幕府による近衛家宇治五ヶ荘の公収

近衛家の所領は、元和3年（1617）に江戸幕府から受けた朱印状によると、山城国宇治郡五ヶ荘村、寺戸村（一部）、浄土寺村において1797石を与えられていた。

黄檗山万福寺建立の経緯は、寛文元年に明より渡来した隠元禪師がもたらした黄檗禪が幕府の許可を得て、この五ヶ荘大和田の地に万福寺が開創された。この地には、元和9年（1622）に造営された、後水尾天皇の生母中和門院（近衛前子）の別邸大和田御殿があったが、寺院建設のため撤去された。黄檗山の創建により、幕府は近衛家相伝の旧五ヶ荘（かつての岡屋荘・富家殿を含む数ヶ村、知行高約1400石）を公収し、この内400石を寺領として万福寺に与え、残る約1000石を天領とした。

この五ヶ荘の知行高に相当する替地として、天領の伊丹郷町のうちから1402石余を近衛家に知行せしめた。この五ヶ荘の一部が万福寺の寺領として定められた事については、隠元禪師の希望によるところが大きいとされている。その背景には、この地域が茶道文化の底流ともいべき「宇治茶」の一大産地であり、また京・大坂・奈良の中間地にあつて宇治川を利用した寺院建材の運送に便利であったことなどの条件などが考えられる。

### 4. 近衛家の宇治所領に対する思いは幾ばくか

この五ヶ荘の地は先に述べたように近衛家にとって他にかげがえのない土地であった。寛文10年（1670）幕府に旧所領地の五ヶ荘内でも特に代々との由緒の深い岡屋の地だけでもと再度近衛家への返還を要望した願状を出した。その結果延宝3年に岡屋村378石余りが返還された。この時の処置として、伊丹郷町の知行分の一部が差し引かれた。

参考文献：伊丹市史（第2巻）、地域研究いたみ7号、近衛家と宇治/宇治市歴史資料館

☆ 別業（なりどころ） 日本古代における皇族や貴族の別宅・別荘的なもので、＜山荘＞＜別墅＞などもこれにあたる。例えば、日本書紀に見られる＜炊屋姫皇后之別業＞、続日本紀では＜右大臣相楽別業＞などがある。 一世界大百科辞典より転載一

『一期一会』

塩井 陽子

今年の夏は猛烈な暑さを日本列島にあびせかけ、年を重ねた私には大変な一夏でした。すでに秋の虫が鳴いて、明月など賞でているはずの頃なのに、虫たちもどこかに避難してカラスだけが暑苦しく叫んでいるようです。

毎日冷房の中にどっぷり浸った生活は、自然からだんだん離れていく淋しさはありますが、一方では生活の合理性でもあるのでしょうか、楽で便利な方へと傾いてまいります。

幼い頃から親しんでいる茶の湯の世界では「夏は涼しく、冬は暖かに」400年前から続く利休さんの教えですが、これも今では「夏は冷房、冬は暖房のよくきいたように」がこのことばに当たりそうです。時の流れには勝てないと利休さんも苦笑していることでしょう。

お茶の世界といえは、大事なことばに「一期一会」ということばがあります。

今日の茶会を一生に一度しかないものと思って誠意をこめて茶席に臨み、真心こめて一服のお茶を差し上げなさいと教えられました。即ち、人生のあらゆる事が一生に一度のことで、再び繰り返されることのないのです。何ごとも心をこめてと思うのですが、実際には大変難しいものです。

私どものガイドでも遠くから訪ねてくださるお客様を迎え「一期一会」でなければならぬと思うし、一つの集まりに臨むのも「一期一会」でなければならぬと思うのですが、

夏ばての心の弱みのせい、年を重ねた

『住んで楽しい町 伊丹』

谷光 洋子

結婚後、伊丹に住むようになって、旧い市役所に届けを出しに来た日のことを思い出します。市場が賑わっていて住み易そうな町だと安心したものでした。

転勤でアチコチ移転を重ね、またこの町に住むようになって、子供たちにはこの地が、記憶に残る故郷になりました。

私にとっても親しみの持てる町になりました。それは、上の息子の夏休みの宿題で、一日伊丹の町を自転車で廻ったからです。

「辻の碑」やら「伊丹廃寺」「昆陽寺」「御願塚古墳」と手頃な市域の中に多彩な史跡、旧跡があることを知ったからです。行基さんや聖徳太子の伝承もあるとか、なかなか話題の尽きない土地柄のようで、火曜会での活動が楽しみです。

また初めての研修旅行も個人では難しい場所の見学や説明があったりとても良い体験でした。弥生文化博物館で知った丹後地方も古墳が沢山あって、出土品も珍しいものが多いようですので行ってみたいですね。

また、見学に許可がいる羽曳野の吉村家とか古民家も行ってみたいです。これからの研修旅行を期待しています。どうぞよろしくお願いいたします。

次回は森本 和郎さんをお願いします。

せいか、若い頃と違ってこのことばの深みをしみじみ味わうようになりました。

次回は溝口美佐子さんにバトンタッチいたします。よろしく

\*\*\* \*\*

<エフエム伊丹出演>

8月25日(日)12:00~13:00 番組名「摂津のへそ」番組担当 山内さん

内容 火曜会の活動紹介・ハーモニカ演奏 池田(利)

□ お知らせコーナー□

□ 主な活動の記録 <郷町館ガイド支援>

7月 9日(火)	兵庫県都市収入役会	25人	担当 寺谷・池田(利)
7月 19日(金)	伊丹小6年生と保護者ほか	約50人	担当 C班
7月 24日(水)	市教委学校教育課	13人	担当 A班
9月 11日(水)	神戸市シルバーパック探訪会	約60人	担当 A班
9月 25日(水)	放送大学伊丹支部友の会	約45人	担当 A班

<出前活動・児童くらぶ訪問>

8月 27日(火) 昆陽里児童くらぶ 24名 担当 山内・池田(利)・酒井  
 内容 世界の人形・おもちゃの紹介・なぜなぜ問答・ハーモニカ演奏

□ 新分科会・研修会日程

9月定例会でご案内しました「分科会活動について」、下半期より従来の分科会(3部会)同好会を再編成し、新分科会と研修会に大別しました。

<新分科会>

10月 22日(火)	旧西国街道(郡山宿から萱野三平旧宅)	集合場所: JR伊丹駅
	ガイド担当 F班 小雨決行	集合時間: 9.20
11月 26日(火)	文学碑を訪ねて(昆陽池から伊丹廃寺)	集合場所: スワンホール
	ガイド担当 B班	集合時間: 10.00

<研修会>

(1) 古文書に慣れる会(略称: 古文書)

毎月1回第2火曜日午後(13:30~)スワンホールにて開催

(2) パソコンに触れる会(略称: パソコン)

毎月木曜日午後(13:30~)月2~3回中央公民館にて開催

ワープロ機能: 各種資料作り、インターネット: 市内外文化財関係のHPを見る。

また、年賀状の作成などの学習も計画しています。一度見に来てください。

\*\*\* \*\*

秋晴れに法隆寺の伽藍映え  
文化遺産をあらためて観る

杉木立深き鞍馬の木の根道  
義経しのび坂くだり行く

ひさびさに娘と語り行く京の街  
名残りの雪は髪に触れ来つ

夕映ゆる池のさざなみきらめきて  
一群れの鴨輪を描きおり

短歌

稲実 道代

投稿コーナー

